

平成30年度 自己評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた加性や創造性を身に付けたくまいし、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現				
評価項目	評価の具体項目	現状	年度 進 捗	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策		
1	学 力 の 向 上	【授業改善】 ○研究科授業 (アクティブ化) 月7月、学方向100% ○ルーティン学習を徹底 (実施率46%) ○進路・進級によって教科のAL(学習到達)率の向上を数値目標に設定、参加人数17名 ○授業アンケートにおける生徒の授業満足度は、74.7% ○学習指導要領における数学科のSS教科目標未達成 ○基礎力強化(12月実施)のD(ノー)ン(基礎力不足)の生徒の割合は、49%(工業科1、2年) ○知識・技能・思考力・判断力・問題解決力 ○各科目で基礎力習得や個別指導を実施、基礎力定着の促進 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【授業改善】 ○主体的・対話的で深い学びを実践する職員数の増加 ○ICTを活用した授業づくり ○80%以上の生徒が授業に満足し回答 【学力の育成】 ○進路選択において、昨年度と同様2年生3教科SS48以上、3年生5教科SS46以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ○基礎力強化(12月実施)のD(ノー)ン(基礎力不足)の減少(全体の40%以下) ○専門分野に対応する数学科の定着 【学習環境の整備】 ○整理・整頓・清掃ができる生徒 ○生徒自身による落ち着いた学習環境づくり	【授業改善】 ○学方向上研修会を2回実施(7月・11月「学びの文化祭」) ○ICTを活用した授業づくり ○他校での公開授業を案内し、教職員への研修を推奨 ○主体的・対話的で深い学びの実践につながるために「アクティブラーナー(授業研究のための働き)」を活用 ○ICT活用に向けたネットワーク環境の整備 ○授業アンケート及び集計結果に基づき授業改善を実施 【学力の育成】 ○進学および基礎学力向上・定着のための補習の実施 ○学力層の生徒に対する個別指導・指導の実施(基礎学力充実補習) 【学習環境の整備】 ○「5Sあそび」の発行により、教室整備と授業規律の確立	【授業改善】 ○学方向上研修会を2回実施(7月・11月「学びの文化祭」) ○ICTを活用した授業づくり ○他校での公開授業を案内し、教職員への研修を推奨 ○主体的・対話的で深い学びの実践につながるために「アクティブラーナー(授業研究のための働き)」を活用 ○ICT活用に向けたネットワーク環境の整備 ○授業アンケート及び集計結果に基づき授業改善を実施 【学力の育成】 ○進学および基礎学力向上・定着のための補習の実施 ○学力層の生徒に対する個別指導・指導の実施(基礎学力充実補習) 【学習環境の整備】 ○「5Sあそび」の発行により、教室整備と授業規律の確立	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
		【授業改善】 ○研究科授業 (アクティブ化) 月7月、学方向100% ○ルーティン学習を徹底 (実施率46%) ○進路・進級によって教科のAL(学習到達)率の向上を数値目標に設定、参加人数17名 ○授業アンケートにおける生徒の授業満足度は、74.7% ○学習指導要領における数学科のSS教科目標未達成 ○基礎力強化(12月実施)のD(ノー)ン(基礎力不足)の生徒の割合は、49%(工業科1、2年) ○知識・技能・思考力・判断力・問題解決力 ○各科目で基礎力習得や個別指導を実施、基礎力定着の促進 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【授業改善】 ○主体的・対話的で深い学びを実践する職員数の増加 ○ICTを活用した授業づくり ○80%以上の生徒が授業に満足し回答 【学力の育成】 ○進路選択において、昨年度と同様2年生3教科SS48以上、3年生5教科SS46以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ○基礎力強化(12月実施)のD(ノー)ン(基礎力不足)の減少(全体の40%以下) ○専門分野に対応する数学科の定着 【学習環境の整備】 ○整理・整頓・清掃ができる生徒 ○生徒自身による落ち着いた学習環境づくり	【授業改善】 ○学方向上研修会を2回実施(7月・11月「学びの文化祭」) ○ICTを活用した授業づくり ○他校での公開授業を案内し、教職員への研修を推奨 ○主体的・対話的で深い学びの実践につながるために「アクティブラーナー(授業研究のための働き)」を活用 ○ICT活用に向けたネットワーク環境の整備 ○授業アンケート及び集計結果に基づき授業改善を実施 【学力の育成】 ○進学および基礎学力向上・定着のための補習の実施 ○学力層の生徒に対する個別指導・指導の実施(基礎学力充実補習) 【学習環境の整備】 ○「5Sあそび」の発行により、教室整備と授業規律の確立	【授業改善】 ○学方向上研修会を2回実施(7月・11月「学びの文化祭」) ○ICTを活用した授業づくり ○他校での公開授業を案内し、教職員への研修を推奨 ○主体的・対話的で深い学びの実践につながるために「アクティブラーナー(授業研究のための働き)」を活用 ○ICT活用に向けたネットワーク環境の整備 ○授業アンケート及び集計結果に基づき授業改善を実施 【学力の育成】 ○進学および基礎学力向上・定着のための補習の実施 ○学力層の生徒に対する個別指導・指導の実施(基礎学力充実補習) 【学習環境の整備】 ○「5Sあそび」の発行により、教室整備と授業規律の確立	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
2	主 体 的 な 学 習 意 欲 と 課 外 活 動 の 実 施	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
		【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ○自主学習時間の増加(目標とする学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ○授業態度は生徒自身が、授業に主体的に参加している生徒がクラスに定着 ○学習意欲を喚起する課題を各科目で進捗表示 ○習得・理解の進捗を各科目で進捗表示 ○生徒の理解と進歩を各科目で進捗表示	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
3	豊 かな 人 間 性 の 育 成	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○生徒会活動は校内行事に参加しているが、各クラス役員の参加が小人数に留まっている (平成29年度実績:高校生マネージャー2名、さわやか運動、等) ○平成29年度活動実績:中国大会出場者数134人(平成28年度より人増加) 【環境改善】 ○TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ○昨年度、昼下校時の自転車による事故が5件あり、交通ルール・マナーの遵守に課題 ○SNS(ライン、インスタグラム、フェイスブック、等)の取扱いに課題 ○携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ○部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同数 (全校生徒に対し126人を維持) 【環境改善】 ○廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ○交通ルール・マナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ○昼下校時の無事故達成 ○規範意識の向上とスマートフォンの取扱いが向上	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ○部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同数 (全校生徒に対し126人を維持) 【環境改善】 ○廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ○交通ルール・マナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ○昼下校時の無事故達成 ○規範意識の向上とスマートフォンの取扱いが向上	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ○部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同数 (全校生徒に対し126人を維持) 【環境改善】 ○廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ○交通ルール・マナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ○昼下校時の無事故達成 ○規範意識の向上とスマートフォンの取扱いが向上	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ○部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同数 (全校生徒に対し126人を維持) 【環境改善】 ○廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ○交通ルール・マナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ○昼下校時の無事故達成 ○規範意識の向上とスマートフォンの取扱いが向上	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策
		【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○生徒会活動は校内行事に参加しているが、各クラス役員の参加が小人数に留まっている (平成29年度実績:高校生マネージャー2名、さわやか運動、等) ○平成29年度活動実績:中国大会出場者数134人(平成28年度より人増加) 【環境改善】 ○TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ○昨年度、昼下校時の自転車による事故が5件あり、交通ルール・マナーの遵守に課題 ○SNS(ライン、インスタグラム、フェイスブック、等)の取扱いに課題 ○携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ○部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同数 (全校生徒に対し126人を維持) 【環境改善】 ○廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ○交通ルール・マナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ○昼下校時の無事故達成 ○規範意識の向上とスマートフォンの取扱いが向上	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ○部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同数 (全校生徒に対し126人を維持) 【環境改善】 ○廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ○交通ルール・マナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ○昼下校時の無事故達成 ○規範意識の向上とスマートフォンの取扱いが向上	【基本的生活習慣の確立】 ○「5Sあそび」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題 ○挨拶・挨拶の回数が増したが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ○学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守り規範意識の更なる向上に課題 ○進路検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ○1日1回の規範意識の向上に課題 【ボランティア活動】 ○活動が活発化しており、その流れの継承が必要(平成29年度実績:タカボランティア25名、 「タメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘保護8名、とっぴサイエンスワールドボランティア 50名、入道明もりのり数回5名、駒つきボランティア4名、万引き防止ボランティア11名、 高校生ボランティア2018 2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ○各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ○部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同数 (全校生徒に対し126人を維持) 【環境改善】 ○廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ○交通ルール・マナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ○昼下校時の無事故達成 ○規範意識の向上とスマートフォンの取扱いが向上	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
4	専 門 的 な 知 識 ・ 技 術 の 習 得	【人材育成】 ○ジュニアシステムは7名参加、企業見学、インターンシップ等が主体 ○SHR等を通して補習、各種大会への積極的な参加の奨励 ○機械 科:高校生ものづくりコンテスト(製作部門)中国地区大会出場 中国地区高校技術者大会出場 ○制御・情報科:3級技能検定電子機器組立て(前期)14名中10名合格で71%の合格率 高校生ものづくりコンテストレゴマインドストームにそれぞれ大会出場 ものづくりコンテストで中国地区大会出場 若年者ものづくり競技大会に出場し、職業能力開発総合大学校長特別賞を受賞 ○電 気 科:放課後や長期休業中に資格取得・基礎力向上講習の実施、資格・検定を 積極的に奨励(高校生ものづくりコンテスト(電気工務部門)中国地区大会出場) ○建設工学科:測量士補3名が合格、一方高校生ものづくりコンテスト(測量部門)では、 中国大会へ出場、ジュニアマイスター特別賞を1名が受賞 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ○レポート内容への添付指導やメント記入などの個別な指導を実施 ○提出期限の前日確認指示をさせていただき、教職員への提出指導を充実	【人材育成】 ○就職、職業観をもつ ○SSの定着 ○専門的な知識や技術の向上のために卒業までに一人一資格以上を取得する 【工業技術基礎「共通実習」の充実】 ○レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ○就職、職業観をもつ ○SSの定着 ○専門的な知識や技術の向上のために卒業までに一人一資格以上を取得する 【工業技術基礎「共通実習」の充実】 ○レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ○キャリア教育の観点で、進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受検の促進 ○就職、職業観をもつ ○SSの定着 ○専門的な知識や技術の向上のために卒業までに一人一資格以上を取得する 【工業技術基礎「共通実習」の充実】 ○レポート提出期限前日にSHRで提出状況の確認、提出指示 ○共通実習のレポート提出期限への指導は工業学科4科が連携する	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
		【人材育成】 ○ジュニアシステムは7名参加、企業見学、インターンシップ等が主体 ○SHR等を通して補習、各種大会への積極的な参加の奨励 ○機械 科:高校生ものづくりコンテスト(製作部門)中国地区大会出場 中国地区高校技術者大会出場 ○制御・情報科:3級技能検定電子機器組立て(前期)14名中10名合格で71%の合格率 高校生ものづくりコンテストレゴマインドストームにそれぞれ大会出場 ものづくりコンテストで中国地区大会出場 若年者ものづくり競技大会に出場し、職業能力開発総合大学校長特別賞を受賞 ○電 気 科:放課後や長期休業中に資格取得・基礎力向上講習の実施、資格・検定を 積極的に奨励(高校生ものづくりコンテスト(電気工務部門)中国地区大会出場) ○建設工学科:測量士補3名が合格、一方高校生ものづくりコンテスト(測量部門)では、 中国大会へ出場、ジュニアマイスター特別賞を1名が受賞 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ○レポート内容への添付指導やメント記入などの個別な指導を実施 ○提出期限の前日確認指示をさせていただき、教職員への提出指導を充実	【人材育成】 ○就職、職業観をもつ ○SSの定着 ○専門的な知識や技術の向上のために卒業までに一人一資格以上を取得する 【工業技術基礎「共通実習」の充実】 ○レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ○キャリア教育の観点で、進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受検の促進 ○就職、職業観をもつ ○SSの定着 ○専門的な知識や技術の向上のために卒業までに一人一資格以上を取得する 【工業技術基礎「共通実習」の充実】 ○レポート提出期限前日にSHRで提出状況の確認、提出指示 ○共通実習のレポート提出期限への指導は工業学科4科が連携する	【人材育成】 ○キャリア教育の観点で、進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受検の促進 ○就職、職業観をもつ ○SSの定着 ○専門的な知識や技術の向上のために卒業までに一人一資格以上を取得する 【工業技術基礎「共通実習」の充実】 ○レポート提出期限前日にSHRで提出状況の確認、提出指示 ○共通実習のレポート提出期限への指導は工業学科4科が連携する	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
5	専 門 的 な 知 識 ・ 技 術 の 習 得	【職業意識の育成】 ○インターンシップ、企業見学、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施 ○インターンシップでは企業との事後協議会を開催 ○校内独自の企業見学に際し、鳥取市雇用促進協議会主催の見学に参加 ○アルバイト就業事業に延べ13名が参加 ○資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ○進路希望調査を定期的に行い、保護者とともに生徒の進路を検討、再検討 ○個別に企業・学校関係者と実施し、生徒が就職企業や学校に進学する機会を設定 ○工業科2年生の就職希望者全員を対象に、キャリアアドバイザーとの面談を実施 ○10人面談を実施し、就職希望率は94%の生徒が10人終了で受験 ○就職希望者数は11日合格率は1日目の90%に引き上げ(87%) ○進学補習を計画どおり実施 ○理数工学科においては「理数工学科1」、「理数工学科探究」への取り組み及び高次交流事業・ 大学訪問を実施 ○国公立の上級学校に10名合格 ○「進路の手引き」を反省に基づき改定	【職業意識の育成】 ○地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識を もつ ○専門的な知識や技術・技能が定着 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の観点に立ち、進路目標を早い段階で確立 ○10人面談を行い、札幌、作法にかけるとともにコミュニケーション能力を高めて 受験 ○一回目の就職試験合格率90%以上 ○工業科も含め様々な入課制度を活用し、国公立大学に10名以上合格	【職業意識の育成】 ○地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識を もつ ○専門的な知識や技術・技能が定着 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の観点に立ち、進路目標を早い段階で確立 ○10人面談を行い、札幌、作法にかけるとともにコミュニケーション能力を高めて 受験 ○一回目の就職試験合格率90%以上 ○工業科も含め様々な入課制度を活用し、国公立大学に10名以上合格	【職業意識の育成】 ○地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識を もつ ○専門的な知識や技術・技能が定着 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の観点に立ち、進学を見据えた進路決定の支援 ○社会人などとの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ○校内における進路行事に保護者へも参加を奨励 ○進路前線に加えて進路指導会を実施 ○企業・学校関係者への参加企業・学校数の増加とともに早期に実施 ○3年就職希望者への10人面談を早期に実施 ○進路の手引きを活用し、計画的な進路指導 ○引き続き進学補習の計画を、就職後・生後にも実施 ○個別面談後進路2年生の3学期から開始、3年生4月時点で、進路意識高揚 ○校内進路日誌の構成の見直しと、進路選択への有効な情報の提供	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
		【職業意識の育成】 ○インターンシップ、企業見学、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施 ○インターンシップでは企業との事後協議会を開催 ○校内独自の企業見学に際し、鳥取市雇用促進協議会主催の見学に参加 ○アルバイト就業事業に延べ13名が参加 ○資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ○進路希望調査を定期的に行い、保護者とともに生徒の進路を検討、再検討 ○個別に企業・学校関係者と実施し、生徒が就職企業や学校に進学する機会を設定 ○工業科2年生の就職希望者全員を対象に、キャリアアドバイザーとの面談を実施 ○10人面談を実施し、就職希望率は94%の生徒が10人終了で受験 ○就職希望者数は11日合格率は1日目の90%に引き上げ(87%) ○進学補習を計画どおり実施 ○理数工学科においては「理数工学科1」、「理数工学科探究」への取り組み及び高次交流事業・ 大学訪問を実施 ○国公立の上級学校に10名合格 ○「進路の手引き」を反省に基づき改定	【職業意識の育成】 ○地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識を もつ ○専門的な知識や技術・技能が定着 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の観点に立ち、進路目標を早い段階で確立 ○10人面談を行い、札幌、作法にかけるとともにコミュニケーション能力を高めて 受験 ○一回目の就職試験合格率90%以上 ○工業科も含め様々な入課制度を活用し、国公立大学に10名以上合格	【職業意識の育成】 ○地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識を もつ ○専門的な知識や技術・技能が定着 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の観点に立ち、進学を見据えた進路決定の支援 ○社会人などとの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ○校内における進路行事に保護者へも参加を奨励 ○進路前線に加えて進路指導会を実施 ○企業・学校関係者への参加企業・学校数の増加とともに早期に実施 ○3年就職希望者への10人面談を早期に実施 ○進路の手引きを活用し、計画的な進路指導 ○引き続き進学補習の計画を、就職後・生後にも実施 ○個別面談後進路2年生の3学期から開始、3年生4月時点で、進路意識高揚 ○校内進路日誌の構成の見直しと、進路選択への有効な情報の提供	【職業意識の育成】 ○地域や企業と連携した活動及び校内での進路行事等を通じ、職業観、勤労意識を もつ ○専門的な知識や技術・技能が定着 【進路指導の徹底】 ○キャリア教育の観点に立ち、進学を見据えた進路決定の支援 ○社会人などとの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ○校内における進路行事に保護者へも参加を奨励 ○進路前線に加えて進路指導会を実施 ○企業・学校関係者への参加企業・学校数の増加とともに早期に実施 ○3年就職希望者への10人面談を早期に実施 ○進路の手引きを活用し、計画的な進路指導 ○引き続き進学補習の計画を、就職後・生後にも実施 ○個別面談後進路2年生の3学期から開始、3年生4月時点で、進路意識高揚 ○校内進路日誌の構成の見直しと、進路選択への有効な情報の提供	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
6	専 門 的 な 知 識 ・ 技 術 の 習 得	【人材育成】 ○企業見学、インターンシップなどの各事業を実施 【情報発信】 ○HPの更新も昨年引き続き、増加傾向 ○前授業や中学校体験入学生など反応は良好 ○年次通信などを1年を通して発行し、学校の見え方を広げている学年あり 【地域との連携】 ○「鳥取県グリーン」の清掃活動の保護者、部活動生徒の参加14回年あり ○タカボランティアは例年通り7月12日に実施 【PTA活動の推進】 ○各事業ごじまじみメールを発信 各事業の参加者は若干の増減があるものの概ね同年 並み ○各事業委員会(9月:13名参加)、また、新規事業として手話講習会(7月、11月:延べ29名 参加)を実施	【人材育成】 ○企業、地域産業から求められる能力を取得 ○生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ○「ものづくり」体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ○生徒が率先してボランティア等、地域と連携した貢献活動に参加 【PTA活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ○保護者、地域の方々から本校の生徒指導方針に關した生徒の見守り	【人材育成】 ○企業、地域産業から求められる能力を取得 ○生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ○「ものづくり」体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ○生徒が率先してボランティア等、地域と連携した貢献活動に参加 【PTA活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ○保護者、地域の方々から本校の生徒指導方針に關した生徒の見守り	【人材育成】 ○企業、地域産業から求められる能力を取得 ○生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ○各事業、学校行事などの情報を事前にHPで発信する回数の増加 ○工業に興味を持つ内容の事前授業を拡大 【地域との連携】 ○生徒会などの協力を得ながら、マナーアップ運動、タカボランティア等地域に対する積極的な ボランティア活動 【PTA活動の推進】 ○メール・メールでの広報の迅速化を継続実施 ○PTA活動の活性化、科ごとの取り組みがわかるよう、よう科別PTAの実施 ○PTAに1年等を通じて、保護者への生徒指導方針の周知	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	
		【人材育成】 ○企業見学、インターンシップなどの各事業を実施 【情報発信】 ○HPの更新も昨年引き続き、増加傾向 ○前授業や中学校体験入学生など反応は良好 ○年次通信などを1年を通して発行し、学校の見え方を広げている学年あり 【地域との連携】 ○「鳥取県グリーン」の清掃活動の保護者、部活動生徒の参加14回年あり ○タカボランティアは例年通り7月12日に実施 【PTA活動の推進】 ○各事業ごじまじみメールを発信 各事業の参加者は若干の増減があるものの概ね同年 並み ○各事業委員会(9月:13名参加)、また、新規事業として手話講習会(7月、11月:延べ29名 参加)を実施	【人材育成】 ○企業、地域産業から求められる能力を取得 ○生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ○「ものづくり」体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ○生徒が率先してボランティア等、地域と連携した貢献活動に参加 【PTA活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ○保護者、地域の方々から本校の生徒指導方針に關した生徒の見守り	【人材育成】 ○企業、地域産業から求められる能力を取得 ○生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ○「ものづくり」体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ○生徒が率先してボランティア等、地域と連携した貢献活動に参加 【PTA活動の推進】 ○保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ○保護者、地域の方々から本校の生徒指導方針に關した生徒の見守り	【人材育成】 ○企業、地域産業から求められる能力を取得 ○生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ○各事業、学校行事などの情報を事前にHPで発信する回数の増加 ○工業に興味を持つ内容の事前授業を拡大 【地域との連携】 ○生徒会などの協力を得ながら、マナーアップ運動、タカボランティア等地域に対する積極的な ボランティア活動 【PTA活動の推進】 ○メール・メールでの広報の迅速化を継続実施 ○PTA活動の活性化、科ごとの取り組みがわかるよう、よう科別PTAの実施 ○PTAに1年等を通じて、保護者への生徒指導方針の周知	経過・達成状況	評価結果 3月	(最終 評価)	改善方策	

注) SS: 整理・整頓・清掃・清潔・整 潔 あらひ・挨拶・作法・人の話を聴く WYS: 積極性・責任に關する教育 ハイパーO(アンケート)より「学校生活と進路づくりのためのアンケート
評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]

ジュニアシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム タカボランティア:卒んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動 AL:アクティブ・ラーニング